

授業科目名 <英訳>	ブータンの農村に学ぶ発展のあり方（国際交流科目） An Alternative Development by Learning from Rural Bhutan [International Exchange Course]			担当者所属 職名・氏名	東南アジア研究所 准教授 安藤 和雄 東南アジア研究所 准教授 坂本 龍太 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也	
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	国際交流		使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態 講義
開講年度・ 開講期	2016・ 後期集中	曜時限	集中	配当学年	全回生	対象学生 全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>						
日本の過疎・離農の問題がブータンでも起きている。その実態を理解し、その問題をいかにして東ブータンの村人、大学の学生や教員、行政者などが捉え、克服していこうとしているのかを、東南アジア研究所と学術協定を結んでいる王立ブータン大学シェラブツェ校において、ワークショップ、東ブータンの村々で参加型迅速農村調査法（PRA）や参加型農村調査と実践（PLA）によるフィールドワークによって学ぶ。本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業（大学COC事業）」(京都学教育プログラム)における「いきよし」として開講されるものである。						
<b>【到達目標】</b>						
交流相手であるブータン王立大学シェラブツェ校の学生や、地元の村人、村の行政関係者、保健所のスタッフ、小中学校の教員や生徒などとの交流や、暮らしの現場に触れることで、ブータンと日本を比較考察することで国際的な視点とは具体的に何をしめすのかを理解する。また、ブータンの過疎、離農の現実に触れることで、これらの問題が日本独自のものではなく、ブータンをはじめアジアにも広がりつつある「グローバルな問題」であるという認識を得る。						
<b>【授業計画と内容】</b>						
王立ブータン大学シェラブツェ校において、同校を受け入れ先として、参加型フィールド講義を行う。形式は集中講義として、ブータンの歴史や農村、農村開発に関する座学1日、フィールドワーク実習を5日、最終日の1日をかけ本講義で掴んだことを発表するワークショップを実施する。座学とワークショップはシェラブツェ校で、フィールドワークは、同校が立地するブータン国タシガン県の農村部で実施する。宿泊地は同校ゲストハウスとゲオック（行政村）の役場、農家を予定している。また、ブータンのシェラブツェ大学の若手教員と学部生を京都府下の中山間山村である南丹市美山町知井振興会に招き、日本の過疎・離農の問題の現状とその問題への取り組みを同じく学んでもらう。また「地(知)の拠点事業」ポケットゼミの学部1年生対象の実習講義を南丹市美山町知井振興会においても座学1日、フィールドワーク2日、最終日の1日をかけてワークショップを実施する予定である。この知井振興会との協働プログラムには、できる限り、本講義でブータンにでかける学生に声をかけて1日でもよいので参加してもらおう。京都大学の学生派遣については、東ブータンの天候のために、2月下旬から3月中旬の2週間で実施する予定（確定は来年度の予定が決定する2016年4月から5月に行う）。したがって2016年度に卒業見込みであり、本科目の単位を卒業必要単位数に含む場合は、注意が必要で、単位認定の時期が来年度に持ち越される場合があるので、注意が必要。この点については担当事務に確認してほしい。学生ブータンのシェラブツェ校からの教員と学生の京都への招聘については、7月中旬から8月上旬の2～3週間と2016年2月上旬1～2週間を予定している。尚授業は京都大学「地(知)の拠点事業」の登録科目でもあり、招へい者との交流会を企画する。						
<b>【履修要件】</b>						
東ブータンのフィールドワークにおいては、村では雑魚寝のような宿泊となる場合もあり、かつ、現地の食事（トウガラシとバター、チーズ味が基本）を食べることになり、また、ゲストハウス等						
ブータンの農村に学ぶ発展のあり方（国際交流科目）(2)へ続く						

ブータンの農村に学ぶ発展のあり方（国際交流科目）(2)

々も、十分な宿泊設備が整っているわけではない。こうした現地でのフィールドワークでの共同生活を問題なくこなしていけることが履修要件となる。

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

東ブータンでのフィールドワークでの参加姿勢やシェラブツェ校でのワークショップでの発表をもとに、最終的には、成績評価を東ブータンの地で参加者全員で議論して学生参加型で成績評価を行う。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学習（予習・復習）等】**

新聞、インターネットでブータン関連の記事にできるかぎり目を通しておき、できることならスクラップする。また、本授業は、過疎、離農の問題に関係することでもあるので、この問題について、新聞、インターネットなどで取り上げられていたら、できるかぎり目をとおし、スクラップなどをしておく。

**【その他（オフィスアワー等）】**

本講義に参加する学生が決定した後は、事前の準備のための説明会と打ち合わせ会を参加者の予定をメール等で確認して1回（5月下旬を予定）を行う。場所は東南アジア研究所で、詳しくはメール等で知らせる。

実習期間が2017年2月下旬から3月中旬となるため、成績報告が遅れる（場合によっては次年度に認定）。

費用は全て学生負担となる。

学生教育研究災害傷害保険への加入、渡航に必要な旅行保険の加入をしてください。また、旅行保険と渡航費（航空運賃と滞在費）で25～30万円は最低でもかかる。これは受講生の負担となる。

受入人数は10名前後を予定。これは、実施地での受け入れの都合による。選抜方法は、基本的には抽選し、課題履修理由を参考にする。